



歴史を訪ねて...

笠岡市の文化財

甲弩にある来迎院神護寺の本堂は、笠岡市内最古の木造建築です。

本堂の天井の上にある棟木には、永禄十一年（一五六八年）十月六日付けの鮮やかな墨書が残っています。墨書のなかで「奉再興神宮寺一字」「大檀那紀政清子息高清」とあることから、今からちょうど四四〇年前、矢掛町小田から新山のあたりを領地としていた小田高清が、この本堂を建立したことがうかがわれます。神護寺は、もとは神宮寺と呼ばれていました。現在でも、お寺には小田高清の位牌が伝わっています。

さらに、少し後の時代である天正十五年（一五八七）付けの棟札もあって、「大檀那小田民部少輔紀高清子息元家等」「奉再興神宮寺本堂瓦上葺成就所也」と書かれています。このことから神護寺の本堂は、永禄十一年に再建した当時は、まだ葺か草葺であり、息子である小田元家の代になって、はじめて瓦葺に改めたのではないかと考えられます。

向拝（礼拝場所）は江戸後期につくられたもののようですが、柱や屋根などは当初の形態をとどめており、建築年代と施工主、大工名が明らかな室町時代後期の仏堂として高く評価されています。



じんごじほんどう
神護寺本堂
県指定重要文化財
(建造物)

展覧会と行事のご案内

もりたになんじんし
新収蔵 森谷南人子

～4月20日(日)
森谷南人子の新収蔵作品
を中心に、小野竹喬<晴色>などを展示します。

次回展覧会

特別展
「上村松園・松篁・淳之
松柏美術館名品展」

4月26日(土)～6月1日(日)

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>



竹喬美術館の光彩 64

夕茜

小野竹喬 作
昭和30(1955)年
36.0×24.6cm

「作家の立場からいえば、自分の領域を見つめ、それの枠の中で、自分のもっているものを生かす以外に道はないんです。もちろん私だって抽象画にも関心はありますし、ピカソなんか、うまいと思うし、自分もあんな絵を描いてみたいと思います。」
(竹喬のことば)

意外なようだが、竹喬はピカソにも関心を寄せていた。しかし、抽象画にすむ日本画家もいたなかで、自分の芸術については、自然をひたすらみつめ、その中に造形を見出すというやり方以外にないのだとしっかり決めていたようである。

今月の表紙

3月15日、国道2号笠岡バイパスが暫定開通しました。地元関係者ら約130人が出席して開通式が行われ、終了後テープカットに続き、地元つばくる保育園児を先頭に西大島新田―入江間の400mを渡り初め。
真新しい道路に園児達は大はしゃぎで元気いっぱい歩いていました。
この開通により、笠岡市街の慢性的な交通渋滞の解消が期待されています。

係から

今日から4月です。今月から新入学、新社会人となる人も多いのではないでしょうか。
働き始めた時の自分を思いたすと、新しい経験の連続で、ワクワクした気持ちで毎日を過ごしていた気がします。
広報の担当になり3年目を迎えます。始めて取材をした時の緊張を思いだし、新たな気持ちで頑張りたいと思います。
(土)

発行日／平成20年4月1日
発行／笠岡市役所
編集／企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷／(株)国輝堂 ☎67-5111



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆インキで印刷しています。